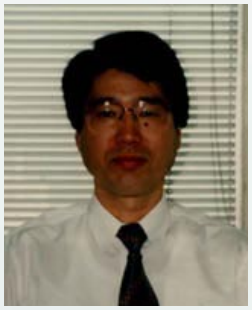
# 沖縄在勤の思い出



**林 正俊**
大蔵省理財局国有財産特別財産室長
（前沖縄総合事務局財務部長）

平成9年7月から11年7月までの2年間財務部長として沖縄に勤務することができましたが、この間、沖縄総合事務局の皆さんには公私ともにお世話になりありがとうございました。

この7月に沖縄を離任したところでありますが、早くも2ヶ月が過ぎました。

今では、毎週食べていたゴーヤーチャンプルーやゆし豆腐が懐かしく思い出されます。

ゆし豆腐は沖縄に赴任して初めて食べた訳でありますが、ゆし豆腐のあっさりした風味とポークと玉子焼きとほうれん草の組み合わせが絶妙であり、初めて食べた時からすっかりファンになってしまい、夏も冬も欠かさず食べていました。東京でゆし豆腐のある所を知っている方がいらっしゃいましたら是非教えて頂きたいと思います。

また、沖縄で初めて体験したこととしては、スキューバーダイビングと空手があります。

わずかな時間ではありましたが、沖縄の文化の一端に触れることができたものと思っています。沖縄文化を体験するものとしては他にも色々ありますが、空手は健康維持にもってこいであり、是非お薦めしたいと思います。また、ダイビングも美しい自然と接するには最適であり、美ら海を実感することができます。

プライベートなことばかりになってしまいましたが、公務の面では、着任した年がちょうど沖縄の本土復帰25周年の節目の年であったことから、11月に行われた政府主催の復帰25周年記念式典に参加することができ、歴代の部長が体験できなかった貴重な体験をさせて頂くことができました。また、普天間基地の移設が打ち出されるなど沖縄を深く知るには中々体験できないような貴重な時空の中での勤務になったものと思っています。

また、貴重な体験といえば、平成10年の正月初めには県内銀行に対する風説の流布事件に対処するため、日銀支店長とともに記者会見を行ったことも思い出されます。

当時流布されていた風説が真実でなかったことは、後で振り返ってみれば誰にでも分かることではありますが、守礼の邦沖縄であのような風説の流布が二度と行われないことを期待しています。

来年7月には、沖縄サミットが開催されることとなっており、沖縄総合事務局の皆さんもこれから色々な面で具体的な関わりが出てくるものと思われますが、ご健闘を期待しております。

また、今後とも、沖縄が着実に発展していくことを祈念しております。

---

# 沖縄在勤の思い出

**寺西 達弥**
運輸省自動車交通局技術安全部管理課長
（前沖縄総合事務局運輸部長）

沖縄を離れて2ヶ月、日々沖縄をなつかしく思い出しております。

真青な海とサンゴ礁、琉球舞踊、エイサー、グルクン、泡盛、ゴーヤーチャンプルー等、どれひとつとっても、日本全国どこにもないすばらしいものばかりです。

私は沖縄で運輸・観光問題にたずさわっておりましたが、これ程の魅力ある観光資源に囲まれた中で、仕事をさせてもらったことを本当に幸せだと思っております。

とりわけ思い出に残っているのが、運輸省、環境庁と共同で行った沖縄におけるエコツーリズム実験事業です。

この事業の一環として実施した、八重山、やんばるのモニターツアーに、本土から参加した人たちの満足そうな様子をビデオで見て、沖縄でやって本当によかったと思ったものです。

その後に開催されたシンポジウムで、沖縄の各地域の人たちが、エコツーリズムへの熱い思いと意気込みを語っていたのも印象的でした。

さて、沖縄県は鉄軌道がない全国唯一の県であり、道路運送が極めて重要ですが、本島内のバス4社の統合問題も、関係者の皆さんの努力で、明るい方向が見えつつあります。

本年5月に開業した新空港ターミナルや、4年後に開通する都市モノレール等、他の輸送モードと、どう連携していくかがひとつのカギとなると思います。

経営環境は依然として厳しいとは思いますが、このことは沖縄に限らず全国的な傾向であり事業者はいずれも自らの創意工夫によって、旅客サービスを向上させ、需要を喚起しようと努力しています。

沖縄においても、関係者の皆さんの一層の御奮闘を期待しております。

沖縄県は数多くの離島を有しており、離島を結ぶ海上交通は旅客のみならず、生活物資の輸送等の面でも、死活的な重要性をもっています。

私も沖縄で初めて離島航路に携わって、このことを痛感しました。

フェリーの新船建造を行った、ある離島の村長さんが、「これまでは健康診断のためお年寄りが那覇に渡って来ていたが、これで那覇から集団検診車をもってこれる。」とうれしそうに語っていたのを覚えています。

多くの離島航路が、赤字をかかえて厳しい経営を余儀なくされていますが、今後ともしっかりと守っていく必要があると思っています。

沖縄は、来年7月のサミット等を契機として大きく変わっていくと予想されます。

5年先の沖縄はどう変わっているだろうかなどと思いを巡らしながら、なつかしい皆さんの顔を思い出しているこのごろです。